

佐久市臼田地区生涯活躍のまち事業化基本計画(案)

もくじ

- 1 「佐久市臼田地区生涯活躍のまち基本計画の位置づけ」
 - (1) 基本的な考え方
 - (2) 対象区域について
 - (3) 計画期間について
 - (4) 計画を通じた目標（重要業績評価指標：KPI）
 - (5) PDCA サイクルの確立について（基本計画の改訂）

- 2 「事業主体の選定」

- 3 「臼田地区の魅力と課題」
 - (1) 魅力
 - (2) 課題
 - (3) 移住者の視点

- 4 「重点項目」
 - (1) 地域の魅力向上（地域包括ケアとの連携）
 - (2) 住まいづくり
 - (3) 移住希望者の確保
 - (4) 地域の協力体制の構築

- 5 「生涯活躍のまち事業計画」の方向性
 - (1) 移住を希望する者に向けた取組
 - (2) 高齢者に適した住宅の整備やまちづくりに向けた取組
 - (3) 社会活動への参加に向けた取組
 - (4) 医療介護サービスの提供体系・関係機関との連携に向けた取組
 - (5) IT活用などによる効率的なサービス提供
 - (6) 事業運営について

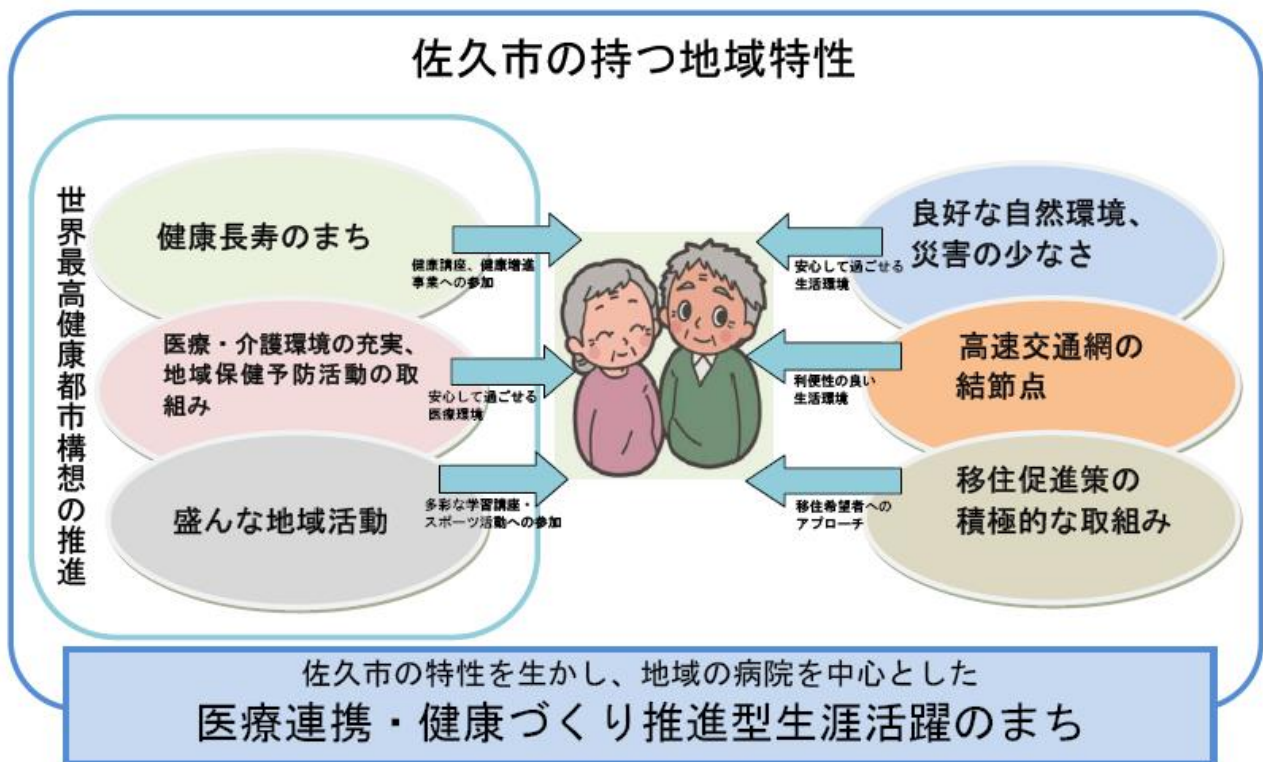
1 「佐久市臼田地区生涯活躍のまち基本計画の位置づけ」

(1) 基本的な考え方

①経緯

佐久市の人口は平成22年（2010年）をピークに減少に転じており、人口減少問題に対峙する中で、新たな人の流れを生み出す手段のひとつとして「生涯活躍のまち」が有効であると考え、平成27年7月から有識者による検討を進め、10月末に「佐久市生涯活躍のまち構想」を策定し、「佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に盛り込んだ。

この構想では、佐久市の地域特性を生かし、地域病院を中心とした「医療連携・健康づくり推進型生涯活躍のまち」をコンセプトに掲げ、東京圏に住むアクティブシニアが自らの希望に応じて移住し、地域の仕事や社会活動、生涯学習などの活動に積極的に参加し、多世代と交流しながら継続的なケア体制を確保することで、移住・交流を一層促進し、地域の活性化を図ろうとするものである。



佐久市の地域特性や地方創生に関する取り組み、日本版 CCRC 有識者会議の「生涯活躍のまち」構想（最終報告）を踏まえ、東京圏での情報発信とニーズ調査、受け入れ側の協力体制づくり、事業形態、運営体制の検討等を行い、事業化による人口減少対策や地域経済の活性化等への効果等を反映した臼田地区での事業化に向けた基本計画を策定する。

②キャッチフレーズ

佐久市生涯活躍のまち構想のコンセプトである佐久市の地域特性を生かし、地域病院を中心とした「医療連携・健康づくり推進型生涯活躍のまち」を定めているが、加えて移住者募集におけるPRをするため、臼田地区生涯活躍野まちに関するキャッチフレーズを以下のように設定する。

「愛され」「褒められ」「期待され」「期待に応える」幸福のサイクルを実現していくまちを！」

(2) 対象区域について

佐久市生涯活躍のまち構想では、立地タイプをエリア型として、臼田地区では農村型（生きがい重視）としている。

農村型…山沿いや農村など、「自然豊かな地域の中におけるサ高住」を想定している。農業や地域活動への参加など地域に溶け込み、積極的に創造的な健康を目指すとともに、地域住民とふれあい、きずなを深め、生きがい豊かな生活を想定している。

(3) 計画期間について

計画期間は平成30年度（2018年度）までとする。

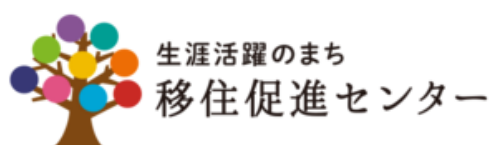
(4) 計画を通じた目標（重要業績評価指標：KPI）

重要業績評価指標：(KPI)・・・組織や事業、業務の目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと。

指標	値
生涯活躍のまち移住促進センターにおける佐久市への移住に関する相談件数	200件
生涯活躍のまち移住促進センターにおける相談者のうち佐久市への移住希望数	40世帯
新たな雇用者数	15人
公共施設の活用件数	1件

※生涯活躍のまち移住促進センターとは…

一般社団法人生涯活躍のまち推進協議会が運営し、誰もが自分らしく、最期まで安心して暮らせる、多世代共生の地域づくりに取り組んでいる先進的自治体を紹介。

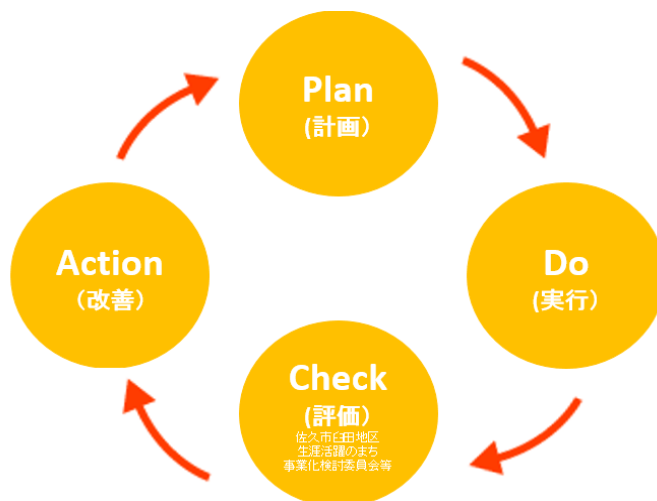


所在地：〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-5-15 田中八重洲ビル 5F

(5) PDCA サイクルの確立について（基本計画の改訂）

本計画の進行管理は、PDCA のマネジメントサイクルに則し、佐久市臼田地区生涯活躍のまち事業化検討委員会の評価を参考にしながら進めるものとする。各年度の達成状況を評価したうえで、本計画の目標達成に向けた取組みを推進していくものとする。

評価にあたっては、限られた財源の中で、より効果的・効率的な財源配分と事業選択を行うという観点から、市全体の取り組みとの関係性を考慮しながら、計画の改訂などを含めた見直しを行う。



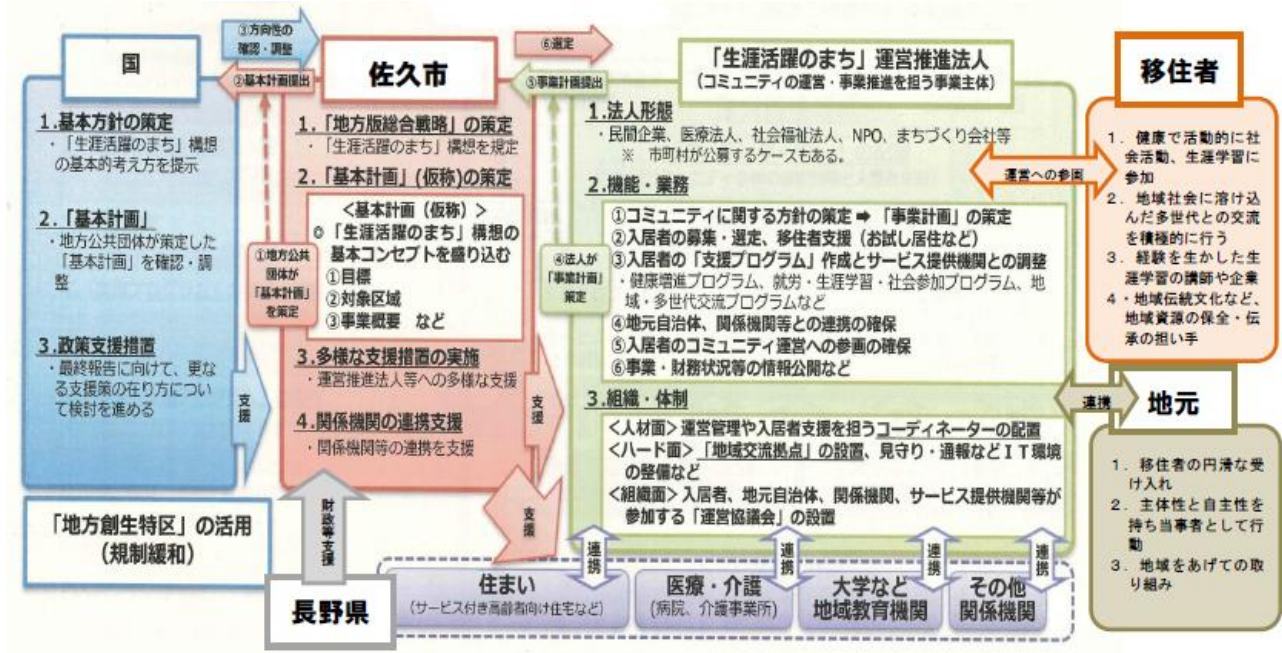
2 「生涯活躍のまち運営推進法人の選定」

(1) 「生涯活躍のまち」運営推進法人

生涯活躍のまちの事業推進にあたっては、各主体が適切な役割分担を行いつつ、コミュニティの運営・事業推進を担う事業主体として、「生涯活躍のまち」運営推進法人の選定を行う。その際には、多様な意見を反映するため、佐久市臼田地区生涯活躍のまち事業化検討委員会等において協議を行うものとする。

また、事業実施においては、多様な団体・事業者との連携が欠かせないので、民間主導のまちづくり会社を設立し、プロデュース役となってその役割を担う。

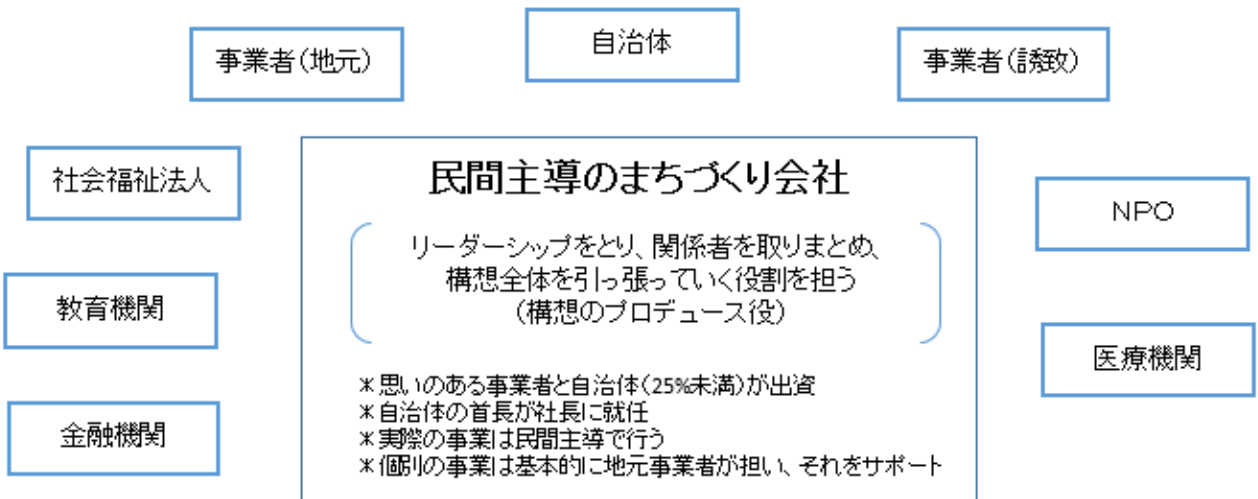
佐久市生涯活躍のまち構想実現における各主体の役割分担と連携のイメージ図



(2) まちづくり会社の考え方

(例)

役割	まちの総合計画・総合戦略の実現に向けた総合プロデュース 場合によっては、オーナーや一部事業を行う可能性もある。 *個別の事業は、基本的に地元の事業者が担えるようにしていく。
出資	自治体、地元の事業者有志、地元金融機関等 自治体は出資金額は資本金の1/4未満に。
優位性	地域の巻き込み 地域の人々の出資を募ることで地域のさまざまな主体の参画を促すことができる。 民間主導の体制づくり 自治体の出資割合を一定程度に抑えることで、民間主導の体制づくりが可能。



3 「臼田地区の魅力と課題」

臼田地区の市民ヒアリングなどを通して、臼田地区の魅力として浮かび上がったのは以下の2点である。

(1) 魅力

①医療・介護環境の充実、地域保健予防活動の取組み

ポイント

- ・有機農業研究会
- ・一部屋温室運動
- ・減塩運動
- ・保健補導員 60 年以上の歴史



もっとも多く挙げたのが佐久総合病院を中心とした医療・福祉の充実についてである。地域医療に関する先進的な取り組みはもちろん、有機農業研究会などで実施された食の取り組みなど幅広い活動が市民の意識に根付いている。

佐久医療センターの新設によって、本院の利用者数は減少したものの、病院完結型から地域完結型へ移行を図ることにより、病院への道の渋滞の緩和など地域の利便性の向上につながっている。

地域の声から生まれた保健補導員の活動は昭和 20 年から 60 年以上も続いており、健康長寿のまちづくりへの大きな役目を果たしている。

介護報酬の改定や介護人材不足についての声も聞かれる。

②晴天率の高い良好な自然環境

ポイント

- ・2つの酒蔵
- ・米の一反あたり収穫量日本一
- ・プルーン栽培発祥の地
- ・日本初 JAS 認定有機米



次に多かったのが、自然環境の良さである。まず、酒蔵が見られるように水が良い。米の単位あたり収穫量が日本一のように土も肥えている。プルーン栽培発祥の地であることから、プルンドレッシングを製作、販売するなど、農業の六次産業化にも取り組んでいる。有機米の JAS 認定は日本初であり、多くの有機農業を志す人が研修に訪れている。

冬の寒さやアクティビティの少なさの声も聞かれる。

一方で、臼田地区の課題として浮かび上がったのは以下の2点である。

(2) 課題

①地域ルール理解の浸透

ポイント

- ・ごみの分別
- ・生ごみの堆肥化
- ・区費による地域運営
- ・地域とのコミュニケーション

臼田地区では佐久市内でも特にごみの分別に力を入れてきている。生ごみの堆肥化を推進し、地域で環境問題に取り組んでいる。また、44に分かれた区により地域が運営されており、区は住民からの区費によって運営されている。これらは地域ルールをあらかじめ認識した上での生活が求められる。

②交通アクセス

ポイント

- ・個人の車が必須
- ・デマンドタクシーが不便
- ・路線バスが少ない
- ・電車が少ない

JR小海線の臼田駅はあるものの、朝夕の時間帯を除いて本数は少なく、路線バスも便数は多くない。デマンドタクシーが走っているが、予約制のため自由に使うことができない。車での移動が基本となっており、車の運転ができない人にとっては移動が難しい。

(3) 移住者の視点

佐久市は空き家バンクの成約数が日本一であり、毎年一定数の移住者が存在する。移住者へのヒアリング等における魅力と課題の主なものは以下のとおりである。



魅力

・ 医療機関の充実
・ 景観
・ 空気、水、野菜がおいしい
・ 野菜が安い
・ 都心からの交通アクセスが良い



課題

冬の寒さ
冬のアクティビティの少なさ
住居が高い
冬の光熱費が高い
市内での移動が不便

4 重点項目

上述の魅力と課題等を踏まえた上で、以下の4項目を重点項目として計画の進捗を管理する。

(1) 地域の魅力向上（地域包括ケアとの連携）

臼田地区の持つ地域特性である医療・介護環境の充実を活かし、地域包括ケアを地域の魅力と位置づける。地域包括ケアの課題解決に向けて連携を行い、魅力発信を行う。

①現在

佐久医療圏、佐久市において、医療、介護連携についての話し合いの場がもたれている。

- ・長野県佐久医療圏地域医療構想調整会議
- ・佐久圏域医療対策協議会
- ・佐久市地域包括ケア会議
- ・臼田地区地域包括ケア会議

②目指す姿

誰もが自分が望む最期を迎えられる医療・介護体制

③今後の取り組み

- ・医療・介護の連携
- ・介護人材確保の仕組みづくり
- ・移送サービスの創出 等

(2) 住まいづくり

アクティブシニアを移住者として受け入れる際の住まいと活動の場の確保を行う。

①現状

空き家バンクを活用し、成約数は全国1位となっている。

②目指す姿

低価格で魅力的な住まいの確保

③今後の取り組み

- ・適切な価格帯、間取り等のマーケティング調査
- ・住まいに適した場所の確保
- ・既存ストックを活用した住まいの検討
- ・住まいに併設する施設の検討 等

(3) 移住希望者の確保

臼田地区へ移住を希望するアクティブシニアの募集を行う。

①現状

世代を問わない移住希望者向けの体制を構築している。

- ・ 佐久市移住体験住宅の設置（望月地区）
- ・ 滞在型市民農園（クラインカルデン）の設置（望月地区）
- ・ 移住交流相談員の設置
- ・ 移住促進住宅取得費等補助金（住宅取得費補助金、住宅改修費補助金、新幹線通勤定期券購入費補助金）

②目指す姿

本人も地域も歓迎するアクティブシニアの移住

③今後の取り組み

- ・ 臼田地区お試し居住環境の整備
- ・ 臼田地区観光ツアーの実施
- ・ 臼田地区住民と移住者の交流会の実施 等

(4) 地域の協力体制の構築

移住者が地域に溶け込み、新たなコミュニティを創出できるための地域の受け入れ体制、協力体制を構築する。

①現状

- ・ 公民館
- ・ 保健補導員
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 農協
- ・ 商工会
- ・ NPO
- ・ 消防団
- ・ ボランティア団体
- ・ 市民活動サポートセンター 等各種団体等が活動を行っている。

②目指す姿

移住者の地域での円滑な受け入れ体制

③今後の取り組み

- ・佐久市臼田地区生涯活躍のまち事業担い手会議
- ・各種活動、団体の連携推進 等

4 「生涯活躍のまち事業計画」に向けた方向性

(1) 移住を希望する者に向けた取組

①移住者

ア 移住希望の意思確認

ポイント

- ・魅力と地域の独自性両面の伝達
- ・相談、検討体制整備
- ・地域体験、居住体験の機会提供

移住希望者にとっては、生涯活躍のまちが実現されることで、移住先の選択肢が増え、自らが望ましいと考える場所に移住することができるようになる。その際には地域独自のルールや慣習があることを理解しないと継続して住み続けることが難しい場合がある。そのような点から、移住希望の意思確認の際には、佐久市の魅力を伝えるだけでなく、地域の独自性など移住者にとって必ずしもメリットとは感じられないことについても十分に理解を得ることが大切となる。

そのために、佐久市臼田地区へ希望する人たちへの勉強会や話し合いの場を定期的に設け、時には移住希望者と地域の人々との交流の機会を持つことが大切である。その一つの手段としてお試し居住がある。現在、佐久市ではお試し居住用の住宅が望月地区に設置されている。今回生涯活躍のまちの対象地域である臼田地区には宿泊施設はあるものの、お試し居住ができる環境を整えることが求められる。ただ、お試し居住以外にも、大都市圏からの日帰りツアーによる地域イベントの参加など、地域交流を行う手段はあるため、効果的な方法を検討しながら取り組むことが望ましい。

イ 移住者の健康状態

ポイント

- ・1人もしくは夫婦で自立した生活ができること
- ・介護度の改善を図れる環境づくり

生涯活躍のまちでは、健康でアクティブなシニア世代の移住が期待される。健康という状況は自らの力で生活ができる自立の状態を言っており、そのような点から、夫婦二人世帯で1人が支援が必要でも配偶者の支援により自立した生活が送れる場合は健康であるとみなす余地はある。また、要介護状態にある人においても、適切なケアにより介護度を改善させられる構想を持った生涯活躍のまちの実現も考えられる。そのような観点から、要介護状態の人を一律に排除する考え方は望ましくなく、その特性に応じた移住者募集を行う必要がある。

ウ 移住者の年齢

ポイント

- ・サービス付き高齢者向け住宅入居対象者
- ・特定の年代に偏らない年齢構成

移住者は消防団や保健補導員、各区での活動など地域での活躍が期待される。現状では、臼田地区で活躍している人は年齢はさまざま、高齢を理由として、活動が排除されるような場所はなく、また活躍ができない活動も見られない。一方で、不安を解消する点から、生活相談や安否確認があることが望ましい。そのような点から、サービス付き高齢者向け住宅に入居できる人を主な対象とするが、50代以上の幅広い年代を求めての展開も考えられる。シニア層であっても年齢幅は広く、60代のみ、70代のみといったある特定の年齢層に偏らないことで、持続的なコミュニティの形成を図ることができるため、その点からも意識して年齢層が分散した移住者募集を行うことも検討に値する。移住者は最期まで暮らし続けることを前提とするため、活躍できる期間をできるだけ長くとするという意味では、早めに移住をすることが望ましく、希望者の意思に応じた住み替えを促すことが望ましい。

② サービスの提供

ア 移住希望者に対する支援

ポイント

- ・お試し居住や地域体験の機会提供
- ・ニーズに応じた柔軟な受け入れ体制整備

現在、東京八重洲にある生涯活躍のまち移住促進センターへ佐久市のブースを出展し、移住希望者への相談等を実施している。移住促進センターでは、「生涯活躍のまちをつくる会」として、生涯活躍のまちへの移住希望者に特化した取り組みも行っており、今後はこの取り組みを佐久市独自のものとして実施していく必要がある。この取り組みは、生涯活躍のまちへの移住を行うために必要な環境について移住希望者とともに作り上げていく会となっていく。そのため、参加者から出てきた要望を反映し、ニーズにそった生涯活躍のまちの実現を行うことができる。例えば、臼田地区でのお試し居住や地域体験ツアーの実施、地域の人々との交流などが考えられる。お試し居住などを通して、移住を決めた人も、退職までの間は元の住まいとの二地域居住を希望するなども考えられる。今後多様なニーズに応えられる柔軟な取り組みが求められ、その体制づくりも重要となる。

(2) 移住者に適した住宅の整備やまちづくりに向けた取組

①立地・居住環境

ア 地域社会（多世代）との交流・協働

ポイント

- ・ 佐久市臼田健康活動サポートセンターとの連携
- ・ 商店街やNPO等との連携
- ・ 多目的室など多世代交流ができる仕組みの併設

地域住民・多世代の「地域交流拠点」としては、佐久総合病院前に佐久市臼田健康活動サポートセンターが平成28年10月に開設予定である。本センターは佐久総合病院と臼田地区のNPOうすだ美図が共同運営を行っていく予定で、コミュニティカフェや健康づくりが行われるなど、地域の健康づくりの拠点となる。生涯活躍のまちにおいても本センターの活用や連携体制の構築は非常に重要であり、密接な連携をとっていく必要がある。

そのほか、生涯活躍のまちの住まい周辺に食堂や多目的室のような共有空間が設けられる可能性もある。そのような際には、移住者だけでなく、地域の住民も利用できるように開放し、交流・協働が図られる配慮が必要となる。

イ 自立した生活ができる居住空間

ポイント

- ・ 各居室へのキッチン、トイレ、風呂の整備
- ・ ニーズに応じたシェアハウスの提供
- ・ 地域で見守る環境づくり

住まいにおいては、自立した生活ができる人には、キッチン、トイレ、風呂などの設備は各個室に備え付けられていることが望ましい。昨今、シェアハウスにおける新たなコミュニティの創造が行われている事例が多く、移住者のニーズ次第ではキッチンを共用とするなど、お互いが支えあえる仕組みを備えた形にすることも考えられる。その際にも、共同生活と個人生活の適切なバランスが取れていることが大切であり、プライバシーを無視したような設計は避けるべきである。支えあいの仕組みについては、移住者同士だけでなく、地域全体での仕組みを整えることが望ましく、そのような観点からも移住希望者のニーズに応じた設計が重要となる。

ウ 移住者の生活等

ポイント

- ・地域で最期まで暮らせる安心の仕組みの構築

生涯活躍のまちは、地域全体でのトータルコーディネートによる最期まで住み続けられる仕組みづくりになる。そのような点で、地域包括ケアの構築は非常に重要である。臼田地区では佐久総合病院が地域包括支援センターを運営しており、佐久総合病院が中心となった地域包括ケア体制の構築が望ましい。ただ、臼田地区のみで解決できる問題と佐久市全域でないと解決できない問題、また長野県全域でないと解決しにくい問題などもあるため、そのような点から、関係団体等で解決しにくい問題を適切に支援することが望ましい。

② サービスの提供

ア 「健康でアクティブな生活」を支援するプログラムの提供

ポイント

- ・移住者が活躍できる環境整備
- ・移住者のスキルの活用

移住希望者は何かをしたいという思いを持つ人が多く、それが実現できる環境整備が重要となる。そのため、佐久市臼田地区生涯活躍のまち事業担い手会議等で、地域住民が中心となって体制づくりに取り組んでいる。今後は、この取り組みがさらに発展するように支援をするとともに、生涯活躍のまち実現後も継続するような仕組みづくりが必要となる。

一方で、移住希望者には趣味や趣向とは別に仕事の経験などから個人的なスキルを持っている人も多く、そのような人たちの活用を検討することも大切となる。臼田地区としてどのようなまちになっていくべきなのかを明確にすることで、それに向けた活力として移住者を活用することも考えられる。

そのような体制整備により、移住希望者の活躍の場を提供することになり、充実した生涯活躍のまちの実現につなげることができる。

イ 「継続的なケア」の提供

ポイント

- ・在宅医療を中心とした自宅で最期まで暮らせる体制整備
- ・地域包括ケアの体制整備

サービス付き高齢者向け住宅では安否確認や生活相談といった基本的な見守りの機能が提供される。最期まで自宅で過ごすためには訪問診療、訪問看護といった在宅医療の体制

が必要である。幸いなことに、臼田地区では佐久総合病院を中心としたそのような仕組みが整っており、この仕組みがさらに充実することで、医療面での心配はあまりないといえる。一方で、在宅介護については介護の人材不足が言われており、介護人材の確保に向けた取り組みが特に重要となる。

(3) 社会活動への参加に向けた取組

ポイント

- ・活動の資金、人員の確保
- ・情報発信・共有の体制整備

佐久市内では、社会福祉協議会や消防団、商工会、NPOなどのテーマ型での活動、また各区など自治会レベルでの地縁型の活動の両方の活発な活動が見られる。ただ、それらの活動がともに何かを行うような取り組みは少なく、それらを横につなげられる人材や仕組みがあることが望ましい。そのためには、活動のための人員と資金が必要となり、それを生み出す仕組みや支援があることが求められる。病院や大学においても、地域での活動は多く、それらの組織との連携を行うことも一つの方法である。

このような活動を行う際にも、その情報を届けるためには工夫も必要であり、回覧板のような伝統的な伝達方法に加えて、タウン誌への掲載やインターネットでの発信といった方法も積極的に行う必要がある。

(4) 医療介護サービスの提供体系・関係機関との連携に向けた取組

ポイント

- ・地域包括ケアの取り組み推進

医療と介護については一朝一夕に協力体制を築くことは難しいため、継続した取り組みが期待される。また、臼田地域では地域包括支援センターが中心となった医療・介護の連携体制の構築を推進しており、これらの取り組みと連携していくことが最優先となる。

(5) IT活用などによる効率的なサービス提供

ポイント

- ・コミュニティの運営と両立した ICT 活用

ICTの整備については、地域包括ケアの観点から、カルテなどの情報共有やフォーマットの統一化などが考えられる。サービス付き高齢者向け住宅については、毎日の安否確認に携帯電話端末などを利用することで、移住者にとっても負担のない見守り体制の構築が見込める。

高齢者の中にも、インターネットになじんでいる人は多く、買い物の情報収集面での利用については活用されている。しかし、コミュニティの運営の観点からは、ICTだけでは不十分なところも多く、その点を十分配慮した取り組みとする必要がある。

(6) 事業運営について

①事業運営

ア 移住者の事業への参画

ポイント

- ・移住者の主体的な運営への参画
- ・サービスを提供しすぎない事業者

主体的な生涯活躍のまち形成をするために、移住者自身が生涯活躍のまちの運営に関わるという姿勢が重要になる。サービス付き高齢者向け住宅ということで、事業者としてはサービスを提供する側になるが、移住者へサービスを一方的に提供するのではなく、移住者の参画も積極的に促すことで、移住者自身の満足度を高めることができる。

イ 情報の公開

ポイント

- ・財務状況も含めた情報公開
- ・個人情報の取り扱いとのバランスのある情報公開

移住者の主体性を促す上では、情報を共有することが重要である。生涯活躍のまちの財務状況などを公開することで、経営がどのような立場に立っているかをお互いが認識し、同じ立場に立って物事を考えることができるようになる。移住者が一緒に経営を行っていくというスタンスでいることで、家賃やサポート費の使われ方についても移住者が希望する使われ方を実現することができ、それが移住者の満足度を高めることにつながる。

ただし、移住者の個人情報などについては注意が必要で、支えあいの仕組みの構築のためとはいえ、移住者が公開を希望しない情報は事業者のみの情報として、移住者の適切な関わり方を判断する必要がある。